



## グローバル化と新しい経済構造における世界

黒田インターナショナル コンサルティング

黒田 毅

密接な世界経済の連携は、その個別経済における安全保障とグループ化における新しい経済構造へ移行しているのである。これらはグローバル化が政治と密接に連携し新しい現実を構築しているのである。

これらは先端産業から第3次産業まで、その需要における経済の価値が、その要求における新しい価値観を与え、経済における構造転換を有するのである。

グローバル化は、先端産業における部品供給が、カルテルにおいて市場の独占を有し、生活と社会における必需品が、完全に世界経済の統一化を有することへの理解は必要である。これらは富という価値が、世界を支配することなのである。

これらはグローバル化という現実が、経済を支配していることであり、他方においては巨大資本が、これを支えているのである。

資本主義の帰結が、富における世界の支配を行うことは、皮肉であるが、現実なのである。

アメリカの先端産業への転換とその独占は、高い利益性における自国経済の転換を模索するものであるが、現実における国家の必要性は、全ての産業における自国資本における自給自足であり、それは明らかに経済における安全保障において正しいのである。

これらは自己経済圏の構築を可能とし、これらは明らかに大きな自己プレゼンスを世界に構築できるのである。

これらとともに次世代技術、エネルギー、システムへの転換を政治のコンセンサスとして行うことは、ドラッカー氏のネクストソサエティへの転換を社会革命において現実化できるのである。

これらは経済の停滞へ、政治のコンセンサスにおける完全な現実転換は、現状の停滞性を完全に打開できるものである。経済は必ず国家と生活を支えるものであり、その大きな現実へのプレゼンスは、日本が有する自国経済の見直しを提案するものである。